

考え得る最悪の終末シナリオ：ペドフィリア戦争

ペドフィリアがどれくらい恐ろしいものか？

Greatchain

2017/12/23

私のよく見る NeonNettle というニュース・サイトの見出しには、“…Found Dead” (死体で見つかる) という言葉が、極端に目立っている。西洋医学を否定し、ホーリスティック医療を実践する医者が found dead、ワクチンと自閉症の関連を発表した研究者が found dead、Big Pharma (大製薬業界) の悪事を暴露した医者が found dead、しかも「またしても」 again という語がついている。これには、事故死という可能性もありうるが、ほとんどが暗殺であることは確実である。ひどいのは、すでに忘れられかけたラスベガス乱射事件の、首謀者にとって不都合な証言をする人々の、(この時点で)すでに9人が found dead。これだけ簡単に、口封じのために、人を次々と殺さねばならない犯行者とは、どれほど狂った、しかし絶対的権力をもつ組織であろうか？

次々とより大きな事件を起こし、それを未解決のままにして、また次の大事件を起こすのは、大衆の注意を**何か**からそらすためであることは確実である。その者たちが、次にはトランプの暗殺と (最大の消しゴムとなりうる) 第三次大戦をも計画している。

いったい何から目をそらし、何を消そうとしているのか？——それが国家規模の (SOTN が国を亡ぼす原因になるという) 上層部のペドフィリアであることは間違いない。最も恐ろしい悪を、見かけ上は、より大きな (派手な) 悪で塗りつぶすという算段であることは、「ピザゲイト」以来の、彼らの動きから明白である。子供への性犯罪は密室で行われるために見えないが、実はこれが、人間の犯しうる最も重大な犯罪である。

国家や社会を動かす者たちの、そのような犯罪は、サタン (の人間滅亡の意志) と結びついているという我々の仮説が、いよいよ明らかになった。レディ・ガガや、リアーナ、その他、何人かの芸能人の証言から、サタンの実在が感じ取れるだけでなく、法王フランシス自身が、サタンは空想の存在でなく実在し、「もやのような、diffuse な (漠然と取りとめのない) 存在でなく、形をもった人間だ」 (——だから、手ごたえのないイエスよりも信頼できる) と言っている。 <http://www.dcsociety.org/2012/info2012/171215.pdf>

ところで、「死体で見つかる」者の中には、親を含め周囲の人々に現場をつかまえられた、または証拠をおさえられた、ペド犯（ペドファイル）が、かなり多数を占める。この者たちは、聖職者も含めて、いずれもかなり残酷に殺されるのが特徴であり、ペド犯に対する一般人の怒りがいかに激しいかを示している。こういう記事は気持ちがよくないので、沢山は訳さないが、紹介したいいくつかの見本だけで十分にわかるであろう。注目すべきは、自警団が各地にできているらしいことである。上流社会では culture と呼ばれ、庶民に広がって epidemic（流行）と呼ばれるほどに、その犯罪件数が多いことがわかる。これは、英米やヨーロッパだけでなく、たとえば、インドでは、この犯罪のために死刑が導入され、フィリピンでは、ペド犯一味を、ドゥテルテ大統領自身が射殺したというニュースもある。自警団が存在するのは、官憲がペド犯に非常に甘く、証拠があつてさえ無罪放免することが多いからでもある。

一つ例をあげよう。ある二十歳くらいの女性が、幼女のころに強姦されたが、どうすることもできなかった。それを思い切つて、十数年を経た今、その男を警察に訴えた。しかし警察は、証拠がないので無罪放免した。すると待ち構えていたその女性自身が、ボーイフレンドの助けを借りて、その場で男を絞め殺した。

これはペドフィリアというものが、いかに被害者に、深い傷と恨み（トラウマ）を残すものかを証明する。私を含めて、我々はおそらく、この犯罪を、成人に対する暴行や不倫の延長のように考えている。それは全く、おそらく質的に、違うのではないだろうか？ この若い女性は、ボーイフレンドとともに死刑になる可能性がある。にもかかわらず、自分の背負った重苦しきから解放されることを選んだ。これは全く、体験した本人でないといけないであろう。かりに、私の子や孫にそういう者がいたとしたら、まして私自身がそんな体験をしていたとしたら、こんな文章を書く余裕があるかどうかさえ、わからない。（男児の場合でも全く同じであることは、ハリウッド俳優の活動家コーリー・フェルドマンが実証している。彼は何度も死を考えたと言う。 http://www.dcsociety.org/2012/info2012/171117_2.pdf）

私が妻から聞いた話を紹介しよう。妻がある親しい友人と共有する、もう一人の友人がいる。この人が、いつも何かを抱えたような、暗い感じの人なので、なぜだろうと最初の友人に訊ねると、その秘密がわかった。彼女は、ごく幼少のころその体験をし、その一瞬の、相手の男の顔が、脳裏に焼き付いてどうしても離れないのだそうだ。こういうことは、他人に伝えられることではない。

このような子供の受難が今、世界中で起こっている。これは子供を、ひとりの人格として殺すことである（実際に殺されて、血をすすられる場合もある！）。そしてサタンは、人間と

は何かを知らない、我々の弱点を狙って、この恐ろしい犯罪を normalize、つまり正常であるかのように導き、最終的に、人間から人間らしさを奪おうとしている。これは命を奪うより恐ろしいことである。単に殺すだけなら、生き残った者がまた後を継ぐだろう。しかし、人間の最も神聖で無垢な部分（年齢的なその部分）を破壊するなら、生き残っても死んだと同じである。ちなみに、生贄に効果的な年齢は4、5歳といわれる。

サタンの関与、すなわち憑依ということを考えざるをえない、いくつかの兆候がある。聖職者の場合は確実にそれであろう。普通の市民でも、ある男がペド犯罪を次々に犯し、どうしてもやめることができないので、自分の欲望を抑えるために、生殖器に漂白剤を注ぎ込むという処置をしたが（具体的にどうしたのか不明）、すでに有罪が確定している間に合わなかった、という記事を読んだ。自分の意志でないものが、働いているのであろう。しかし、この犯罪の異常な蔓延そのものが、自然の状態では考えられないであろう。

最後に、その異常な流行への対策として考えられた、滑稽というべきか、「不道德、本末転倒、不気味」というべきか、信じられない方法があるという記事を紹介しておこう。それは、幼女や少女の人形を作って“処理”させるという、窮余の一策だという。（実物写真の掲載はやめておこう）。考案者はこう言っている：――

「それは、不道德、本末転倒、かつ不気味に見えるかもしれませんが・・・しかし、我々是一个の社会として、子供たちを、性的捕食者たちから、どうやって護ったらいいのですか？」と、Behrendt は訊ねた。「我々は、ペドファイルたちに、今までやってきてあまり成功しなかった、性的衝動を忘れ、抑制するような方法を用いるべきか、それとも、他のセラピーに加えて、本当の子供でなく、CSB 医療の方法に関心を向けさすか、ということです。」

――以上、暫定一部